



確かな学力の向上をめざして【1月】

■幼児教育と小学校教育の円滑な接続～育ちと学びをつなぐ～

このたび、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、小学校学習指導要領等の改訂により、教育全体を通して資質・能力を育むことが示され、子どもの育ちと学びをつなぐ教育の充実が求められています。

鳥取県のキーワードは3つの「つなぐ」～鳥取県幼保小接続ハンドブックより～

子どもの育ちと学びをつなぐために

組織をつなぐ

- ・管理職同士のつながり（連絡協議会等）
- ・連携推進担当者同士のつながり
- ・年間連携（交流）計画の作成
- ・就学前後の引継ぎ・連絡会の実施
- ・園、学校、学級だより等の送付・掲示等
- ・幼保小の相互理解に向けた参観・研修等の実施

人をつなぐ

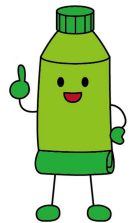
- ・園児と児童、園児同士の交流
- ・ねらいを明確にした交流
- ・教職員の相互理解
- ・保育参観・授業参観
- ・合同研修会
- ・保育体験・授業体験

教育をつなぐ

- ・めざす子どもの姿の共通理解
- ・互いの教育内容・保育内容を理解
- ・つけたい力等を協議し、共通実践
- ・カリキュラムの編成・実践・評価・改善

幼保小の連携・接続を推進することは、子どもの発達段階や発達の過程を知ることができ、子どもをより理解することにつながります。

また、学びの連続性を知ることができるため、学びの視点を明確にした教育が展開でき、幼児期に培った力を授業に生かすことができます。



「人をつなぐ」から「教育をつなぐ」へ ～市町の取組紹介～

【北栄町の取組】

（北条小学校・北条こども園合同研修会）

5歳児の保育を参観し、「園児の行動から資質・能力を考える」というテーマでグループ討議が行われました。園での活動が授業の意欲を育てる土台になっていることや、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」について理解をする機会となり、小学校教育へのつながりを確認し合うことができました。

【倉吉市の取組】

（平成30年度幼保小連携推進事業）

関金小学校5年生と関金保育園5歳児が交流活動を行いました。それぞれのねらいを明確にした活動内容になるよう工夫され、参観した市内の園や小学校教職員にとって学びの多い交流活動となりました。

＜和田信行氏の指導助言（平成30年度幼保小連携推進事業アドバイザー）＞

■互恵性のある連携とは、双方にメリットがある。園児にとっては「活動への意欲」「人との関わり」などに成長がみられるか、児童にとっては「教科・領域の内容の深まり」「人間的な成長、思いやり」などに成長が見られるかが大切。

＜河邊貴子氏の講演より（幼保小連携推進研修会講師 聖心女子大学教授）＞

■「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」は、育ちを見る視点と捉える。小学校の先生には、「この子はどんなふうに育っているのかな。」と内的な体験を丁寧に見ていただきたい。

幼児期に身に付けたことを生かしながら教科等の学びにつなぎ、子ども達の資質・能力を伸ばすことが重要です。

平成31年2月5日（火）幼保小連携推進事業実施市町による中部地区研修会（兼倉吉市幼児教育研究会）を開催します。倉吉市の実践発表や和田信行先生の講義をとおして、接続カリキュラムへの理解を深め、「教育をつなぐ」取組を推進することを目指しています。多数のご参加をお待ちしています。

